

# Dorico 機能詳細リスト

2018/1/09 改訂

## 記譜と編集

### 音符入カツール

- 音符入力位置を表し、矢印キーで小節 / 譜表を自由に移動できるキャレット
- キャレットの拍の位置を表すリズムグリッドルーラー
- 基音から和音を素早く構成できる和音入力モード(ショートカット: Q)
- 装飾音符を素早く入力できる装飾音符入力モード(ショートカット: /)
- 音符を他の楽器にコピーし、リズムを維持したまま音高を変更できるデュレーションロックモード(ショートカット: L)
- 優先する拍子に応じて、自動リズム記譜を上書きするデュレーション強制モード(ショートカット: O)<sup>†</sup>
- 最後に入力した音符や和音を繰り返せるリピートモード(ショートカット: R)
- 既存の音符の分割やタイの除去ができるハサミツール(ショートカット: U)
- 拍子や音符のリズム位置に応じて自動的に適切な休符を生成<sup>†</sup>
- 自動的に音符や休符の衝突を回避し、各楽器に無制限の声部(又はレイヤー)を割り当て可能<sup>†</sup>
- 声部に含まれる要素の入れ替えや声部間での音符移動が可能
- ドラムセットのパーツ自動割り当てを含む無音程打楽器用入力モード(キックやスネアに下向き符尾、ハイハットやシンバルに上向き符尾など)<sup>‡</sup>
- 既存の音符の上下に、音程度数(全音階 / 長 / 短 / 増 / 減)の入力により素早く音程を追加(ポップオーバー: Shift + I)<sup>‡</sup>

### アルファベット入力

- 音符の音高 / 音価 / 臨時記号 / アーティキュレーションを入力できる単一キーでのショートカット

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 基本的な記譜 / 編集作業にはテンキー不要
- ほぼすべての記号入力をコンピューターのキーボードだけで行える独自のポップオーバーシステム

## MIDI キーボードを使ったステップ入力

- USB / MIDI 接続したキーボードから入力可能
- コンピューターのキーボードから音価 / 付点 / アーティキュレーション等を選択し、MIDI キーボードから単音または和音を演奏して入力可能
- すべての調号に対応した異名同音表記、よくある間違いを入力時に自動訂正<sup>†</sup>

## マウスを使った入力

- マウスポインターを使って音符入力可能
- クリックで入力される音高を音符の影で表示
- クリックで入力される音符のリズム位置をリズムグリッドで表示
- 記譜モードの右パネルのマウスクリックですべての記号を作成可能
- 選択ツールの使用によりマウス入力を無効化することで、コンピューターのキーボードでの入力とマウスでの選択が可能
- マウスポインターを使って任意の要素の移動や長さ調節可能

## 高い自由度

- 拍子を気にせず入力し、必要な時だけに小節線や拍子記号を追加可能
- 音符の入力や削除、音価の変更に応じて周囲の音符のリズム位置を自動調整する挿入モード(ショートカット: I)<sup>†</sup>
- 選択した音符の音価を変更する際、すべての後続音符を移動するか(挿入モード)、または部分的に上書きし全体の譜割を維持するかを選択可能<sup>†</sup>
- どんな位置からも連符を入力でき、小節をまたいだ連符も作成可能<sup>†</sup>
- 連符削除の際、連符に含まれていた音符や休符を合理的な音価に自動調整

## コピー&ペースト

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 選択した要素や要素の組み合わせのほぼすべてをコピー&ペースト可能
- 要素を選択し、複製したい位置を Alt / Option キー + クリックするだけで要素の複製が可能
- 要素を選択し、R キーを押すだけでその位置からの反復コピーが可能
- 選択範囲から特定の要素を抽出しコピーや削除が可能なクイックフィルター
- 声部やコードから個別の音符のフィルタリングが可能

## 移調

- わかりにくい音程(増一度など)の度数計算も可能な洗練された移調機能
- 西洋式の音程(短三度、完全五度など)またはオクターブの任意の分割による移調
- 音楽的に記譜不可能な移調(3個以上のシャープやフラットなど)は自動的に除外
- 選択要素を任意の音程に素早く移調(ポップオーバー: Shift + I)<sup>‡</sup>

## ナビゲーション

- クリック&ドラッグでスクロール、または範囲選択するかを単一キーで切り替え可能(ショートカット: H)
- トラックパッドのジェスチャー対応: 2本指でのスクロール、ピンチでのズーム
- マウスホイールで上下スクロール、Shift + ホイールで左右スクロール、Ctrl / Command + ホイールでズーム可能
- フロー中の任意の小節やレイアウト中の任意のページへの移動ダイアログ、および前後のフローへの移動コマンド

## オプションと属性

- 5種類のオプション(レイアウト / 記譜 / 浄書 / 再生 / 音譜入力オプション)により数百に及ぶ要素の外観や再生設定をグラフィカルに設定可能
- オプション画面を開いたまま別の作業が可能
- 個別の要素に応じて切り替わる属性パネル
- 指定したオプションを新規プロジェクトの初期設定として設定可能

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

## 記譜

### 臨時記号と調号

- 異なる声部や譜表などで補助的な臨時記号を生成可能
- 臨時記号の有効範囲を選択可能(一般 / 新ウィーン楽派 / 現代音楽など)
- 任意の単位での平均律に対応<sup>†</sup>
- 12平均律でのトリプルフラット / トリプルシャープに対応<sup>†</sup>
- 24平均律での1/4音単位の臨時記号に対応
- 括弧付き臨時記号を表示可能
- シャープ7個 / フラット7個までの調号対応
- シャープ、フラット、ナチュラルの混合などカスタム調号の作成が可能
- カスタム調号と任意の平均律を用いてカスタム臨時記号システムを作成可能<sup>†</sup>
- 調号の適用範囲を、全楽器、又は特定の楽器のみと選択可能

### アーティキュレーション

- 8種類の標準的なアーティキュレーションを種類別に分類: 強調(アクセント / マルカート)、音価(スタッカティッシモ / スタッカート / メゾスタッカート / テヌート)、強勢(強勢 / 無強勢)
- アタックやリリース部分だけに影響するアーティキュレーションをタイの最初や最後だけに表示設定可能
- アーティキュレーションを間違った組み合わせで入力できない仕組み(スタッカートとスタッカティッシモの組み合わせなど)
- アーティキュレーションを符頭の上、符幹の横などに自動配置: 任意の記号を常に譜表の上に配置可能
- スラー / タイ / 連符に対してアーティキュレーションの位置を自動調整

### 小節線、括弧、大括弧

- リズム上のどの位置でも小節線の挿入 / 削除可能。これにより不規則な拍子や無拍子などこれまでにない自由な作編曲が可能

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 小節線(縦線、複縦線、終止線、反復開始 / 終了、破線、太線、短線、ティック):  
フローの最終小節に終止線、移調時に複縦線などを自動配置可能
- 反復(終了 - 開始)線の外観を「細-太-細」と「太-太」から選択可能
- 小節線のデザインや間隔を包括的に設定可能
- 4種類の設定に応じて楽器の括弧、大括弧を自動付加(なし / 小アンサンブル / オーケストラ / ブラスバンド)
- 譜表の間隔に応じて大括弧の形を調整可能<sup>†</sup>

## 小節番号

- 組段毎 / 任意の小節毎 / 毎小節に小節番号を表示可能(小節線の上または小節の中央に表示)
- レイアウト毎に独立して小節番号の表示頻度や外観を設定可能<sup>†</sup>
- 小節番号の囲み線(正方形 / 円)を設定可能
- 組段幅に合わせて小節番号を整列可能
- 一番下の譜表の下に小節番号を表示可能
- 任意の小節で小節番号を変更: 番号+アルファベットでの表示も可能(例: 1, 2, 3, 3a, 3b, 3c, 4)
- 同じ小節の中で組段 / フレーム区切りをした際、次の組段の最初に括弧 [ ] 付きで小節番号を表示<sup>†</sup>
- ページビュー / ギャラリービューにて、レイアウトオプションとは別にナビゲーションの補助として毎小節に小節番号を表示可能

## 連桁

- 符幹の方向に応じて連桁のグループ、水平または傾斜を自動調整
- 連桁の縦位置を譜表の線、または譜表の上下での線の延長上にスナップ可能
- 連桁の上書き可能: 分割された音符の連結、連桁からの分離など
- 譜表をまたいだ連桁において、連桁を上下譜表に被らないように強制配置可能<sup>†</sup>
- 譜表をまたいだ複雑なリズムの連桁での角を自動調整<sup>†</sup>
- 複雑なリズムでの連桁において、拍のグループや分割に応じて第2連桁を最適

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- に分割<sup>†</sup>
- 連桁内の休符に対する幅広い対応: 連桁の最初 / 最後への休符配置の可否、休符の上に伸ばす連桁の数など
  - 休符用のステムレット作成: 浄書モードで個別のステムレットの長さを編集可能
  - 休符を含む範囲を連桁で結ぶ際に休符を自動的に移動し、符幹が不必要に伸びることを回避<sup>†</sup>
  - 斜めの連桁の角度を変更した際に自然さを保つために太さを自動調整<sup>†</sup>
  - 連桁、装飾音符連桁の角度を設定可<sup>†</sup>
  - 装飾音符の連桁も譜表の線にスナップ可能
  - 不完全連桁(例: 複合拍子での付点リズムなど)の方向を自動調整、左右切り替え可能
  - 32/64分音符において譜表の線へのスナップ範囲を増やすために、連桁の幅を最適化可能<sup>†</sup>
  - 扇型連桁の作成、扇の方向切り替え可能<sup>†</sup>
  - 連桁から上下に符尾が伸びる、譜表をまたいだ連桁を最適に自動調整<sup>†</sup>
  - 打楽器楽譜(五線譜、打楽器グリッド、個別楽器譜)専用の連桁傾き設定<sup>†</sup>

## コード記号

- MIDI キーボードからのコード入力: 弾いたコードを自動判別
- 専用ポップオーバーを用いたコンピューターキーボードからのコード記号入力
- 6種類のプリセットからコード記号のスタイルを選択、または浄書オプションにてカスタマイズ
- 任意のテキストフォントをコード記号に使用可能
- 専用グラフィカルエディターによるコード記号の外観編集
- 分数コードの対角線または垂直表示を含む、豊富なコード記号の外観設定<sup>†</sup>
- ポリコード対応<sup>†</sup>
- モード記号対応(C リディアン、F ミクソリディアンなど)<sup>†</sup>
- コードの再生: 再生モードで音色を選択可能
- リズムセクション楽器に自動的にコード記号を表示、および他の楽器に設定モード

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

にて表示指定可能<sup>†</sup>

- パートレイアウトにコード記号を自動的に含む<sup>†</sup>
- コード記号の異名同音表示
- 個別のコード記号を非表示可能
- それぞれの組段においてコード記号の縦横位置を高度に調節し衝突を回避

## 音部記号とオクターブ線

- 25種類の音部記号(オクターブ上下 / ソプラノ / バス / バリトン / 低バスなど含む)
- 音部記号変更時の表示の大きさを浄書オプションで設定可能
- 他のパートとのリズムの乱れを最小限に留めつつ、音部記号と音符や休符、小節線との間隔を適切に自動配置
- 1~3オクターブ上下のオクターブ線(8va / 8ba / 15ma / 15mb / 22ma / 22 mb)<sup>†</sup>
- オクターブ線で囲む音符の形に応じて線にコーナーや角度をつけることが可能<sup>†</sup>
- オクターブ線で囲まれた音符を自動的に正しいオクターブ高に移調
- オクターブ線の整列機能: 符頭 / 臨時記号への整列含む<sup>†</sup>

## キュー<sup>‡</sup>

- 素早く効果的にキューを追加(ポップオーバー: Shift + U): キューに用いる楽器名をタイプするだけで適切な形式のキューを目的のパート譜上に表示<sup>†</sup>
- キュー元のパートの編集に応じて自動的にキューの内容を更新<sup>†</sup>
- キューの提案セクション: プレーヤーが演奏を休んでいる時間に応じてキューの位置を提案、またその時に演奏中の楽器をキューの候補としてリスト表示<sup>†</sup>
- キューの提案箇所をスコア上にハイライト表示<sup>†</sup>
- 作成済みのキューをスコア上にハイライト表示<sup>†</sup>
- キューを自動的に形式化(例: 通常音符の 75%、ラベル付加、給付付加など)
- キューにどの楽譜要素を含めるかを選択(ダイナミクス、スラー、装飾音、奏法、テキストなど)<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能



- キューの参照元と目的パートで音部記号が異なる場合、キューの開始と終了箇所  
に自動的に適切な音部記号を挿入<sup>†</sup>
- Dorico が自動設定したキューの音部記号をキュー毎に上書き設定可能<sup>†</sup>
- キュー元と目的パートでオクターブ範囲が異なる場合など、視認性向上のために  
自動的にキューをオクターブ移調し、移調記号を付加<sup>†</sup>
- 複数のキューを設定可能: 必要に応じて重複や結合も可能<sup>†</sup>
- 無音程のリズムのみのキューを譜表上に表示: 無音程打楽器のキューやセクショ  
ンでの特徴的なリズムによるキューに有効<sup>†</sup>

## 強弱

- 局部的強弱記号、段階的強弱記号(例: ヘアピン <>、cresc.、dim.)、アタックの強  
弱/強度レベル(例: rfz, sfz)、結合式強弱記号(例: fp, mp-f)
- 強弱の修飾子(例: poco p, molto ff, meno p)<sup>†</sup>
- 極端な強弱記号(例: dim. al niente, fff possibile)、6段階のピアノとフォルテに対応
- ヘアピン > の終端にニエンテを表示(n または小さい丸)<sup>†</sup>
- 段階的強弱記号はヘアピン、テキスト、テキストと線、線で結んだテキスト(例:  
cre……scen……do)で表示可能<sup>†</sup>
- ヘアピンの外観選択(実線 / 破線 / 点線)
- Messa di voce ヘアピン(伸ばした単音に対して最初に徐々に強く、後に徐々に  
弱くする)の自動生成、強弱切り替えポイントの設定可能<sup>†</sup>
- 強弱記号が他の要素と衝突しないよう、またヘアピンが短すぎてアクセントに見  
えないようにリズムを考慮しつつ最適に調整<sup>†</sup>
- 局部的強弱記号を音符や和音の中心に自動的に揃え、修飾詞は主要な記号の  
前後に適切に配置<sup>†</sup>
- 前後の強弱記号と自動的にグループ化し、音符との衝突を避けるために縦位置  
を自動調整
- 強弱記号のグループおよびグループ解除
- 強弱記号をボーカル譜表の上に自動配置
- 結合式強弱記号の区切り用文字を選択可能<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能



- 組段をまたぐ強弱記号に対して、開き口や角度などを独立設定可能<sup>†</sup>
- 破線ヘアピンを用いる場合の視認性を高め、閉じ点を完璧につなぐため、ヘアピンを単純な角度付き線としてではなく多角形パスとして描画<sup>†</sup>

## フィンガリング

- 鍵盤 / 管 / 弦 / 有音程打楽器に素早くフィンガリングを追加 (ポップオーバー: Shift + F)
- 譜表の上下、スラーの内 / 外に、慣習に応じてフィンガリングを自動配置<sup>†</sup>
- 持続音におけるフィンガリングに対応<sup>†</sup>
- 代替フィンガリングを詳細に表示可能 (番号の上下にスラーを表示、特定の位置に横線を表示など)<sup>†</sup>
- トロンボーンのスライドポジションやダブルフレンチホルンなどホルンの支管のフィンガリング表示に対応<sup>†</sup>
- 弦楽器のフィンガリングのシフトを表示<sup>†</sup>
- 伝統的な太字フォントや任意のフォントを指定可能<sup>†</sup>

## 装飾音符

- 任意の音価組み合わせでの装飾音符入力可能
- 複数の楽器の装飾音符に対して自動的に間隔を最適化<sup>†</sup>
- 同じ譜表の複数の声部に対して包括的に間隔を設定
- 装飾音符を小節線や音部記号の前後に分割<sup>†</sup>
- 装飾音符と通常の音符を簡単に結びつけ基本的なリズム位置に配置<sup>†</sup>
- 装飾音符のサイズ設定
- 装飾音符と他の要素との最小間隔設定<sup>†</sup>
- 装飾音符と通常音符の間にスラーの自動配置可能、その他詳細な配置調整可<sup>†</sup>
- 譜尾の方向自動判断: 同一譜表の複数声部の場合も含む

## 延長記号と休止記号

- 7種類のフェルマータ記号 (非常に短い / 短い / 通常 / 長い / 非常に長い、およ

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- び Henze を用いた短い / 長いフェルマータ)<sup>†</sup>
- Britten が用いたカーリユー記号 (楽器間のタイミングが揃うまで場をつなぐ)<sup>†</sup>
- 4種類のプレス記号 (コンマ / チェックマーク / 上げ弓 / Salzedo: コンマとフェルマータの複合)<sup>†</sup>
- 4種類の中間休止記号 (通常 / 太い / 短い / 湾曲)<sup>†</sup>
- 一つの音符にフェルマータを加えることで、すべての譜表のすべての声部に対し適切な音符や休符位置にフェルマータを自動生成<sup>†</sup>
- フェルマータを小節線上に配置可能<sup>†</sup>
- フェルマータを組段の上または下に適切に配置
- ピアノなど複数の声部を持つ楽器において、フェルマータの表示頻度を選択可能 (声部毎 / 譜表の片側毎 / 譜表毎に一度の表示)<sup>†</sup>
- 中間休止記号をすべての譜表間で自動揃え、隙間を適切に配置<sup>†</sup>
- 中間休止記号を音符の前に配置、音符に対する間隔を指定可能
- 延長記号と休止記号の衝突を自動回避

## インストゥルメント

- 約300種類の楽器音を搭載: 木管 / 金管 / 弦楽器 / 音階打楽器 / 無音階打楽器 / 声楽 / 鍵盤楽器 / ギター 他
- プロジェクトに素早く楽器を追加できる、キーボード操作可能な楽器選択画面: バリエーション選択 (例: 異なる移調、フルスコアとパートで異なる音部記号を表示など)も容易
- 複数の楽器を担当するプレイヤーのために自動的にインストゥルメントを切り替え、最初の楽器の最後の音符と次の楽器の最初の音符にテキスト表示<sup>†</sup>
- 一般的な楽器のグループを作成 (木管、SATB コーラス など、プリセットアンサンブルを使用)<sup>†</sup>
- プレイヤー間の楽器移動可能<sup>†</sup>
- 調号を用いない楽器に対応 (ティンパニ、無調号フレンチホルン、トランペットなど)
- プレイヤーと楽器のグループ作成: 番号付
- プロジェクトの各楽器に対して HALion Sonic SE 2 から適切なプリセットパッチを

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

## 自動割り当て

## 歌詞

- 譜表の上下に行数無制限の歌詞を表示可能
- メインとなる歌詞に対する翻訳歌詞を斜体で表示可能<sup>†</sup>
- メインとなる歌詞に対するコーラスラインを自動配置<sup>†</sup>
- 同一単語の音節間にハイフン、および単語や音節が複数音符にわたる場合(メリスマ)は延長線を配置
- 歌詞のテキスト揃え(左 / 中央 / 右)
- 歌詞の番号を自動表示
- 単音に複数文字の日本語歌詞が該当する場合にスラーを下に表示可能
- ノーブレークスペースやハイフンを用いて複数の音節を単音に割り当て可能
- 日本語歌詞対応: 単音に一音節または複数音節割り当て可能、音節が複数音符にわたる場合はハイフン表示
- 歌詞の横位置がリズムを乱さず、かつ視認性を維持するために歌詞の横位置を自動最適化<sup>†</sup>
- 歌詞の縦位置での衝突を自動回避

## 長休符

- 後続小節の休符を自動的に長休符に統合
- 移調、拍子変更、テンポ変更、リハーサルマーク変更時に長休符を自動分割
- 長休符の幅は該当する小節数に順応
- “tacet” 長休符を自動作成: フローの終端まで延びる “tacet al fine” 含む<sup>†</sup>
- H の形のバーまたは旧式(異なる長さの休符を組み合わせて表示)を選択: 旧型の場合は何小節以上で H の形に切り替わるか設定可能
- ピアノ、ハープ、オルガンなど大譜表を使用する楽器の場合、長休符の小節数を中央に自動配置<sup>†</sup>
- 1小節分休む場合に H の形か通常の小節休符のどちらを用いるか、また小節数を表示するかを選択

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- H の形のバーの外観、小節数の位置、間隔などを包括的に設定可能

## 音符と符頭

- 1/1,024分音符から最長音符(4分音符32個分)まで対応
- 最大4つまでの付点
- 上下向き符尾を持つ声部を各プレーヤーに無制限に同時設定可能: 衝突回避と声部の順をアルゴリズム制御<sup>†</sup>
- あらゆる音価の音符を拍子とリズム位置を考慮しつつ最適な方法で自動表示<sup>†</sup>
- 音高と有効な声部の数に応じて、符尾の上下方向を自動制御: 譜表の中央(第3)線上にある音符の符尾の上下は、前後の流れから自動判断<sup>†</sup>
- 複数の声部を持つ場合は上下にある音符の符尾を自動短縮
- 連続する短音符、および臨時記号付き音符の加線を自動短縮<sup>†</sup>
- 浄書モードにて符尾の長さや加線の幅を編集可能
- クローズポジションやクラスターコードでオルタードユニゾン(臨時記号付の同名)を用いる場合など、音が密集する場合は符尾を自動分割<sup>†</sup>
- 符頭のデザイン選択: デフォルトと大きめ
- ノート名を符頭の中に表示: 教材用など
- 極端な拡大時でも符頭と符尾が滑らかに接続するよう調整
- 符鉤付き音符に付点が付いた場合の位置調整(衝突回避 / 短い符鉤を使用 / 符尾を伸ばす / 付点をオフセット)<sup>†</sup>
- Figurenotes© カラー符頭対応<sup>‡</sup>
- セイクレッドハープ / シェイプノート対応: 4 / 7 シェイプ方式を標準装備<sup>‡</sup>

## 装飾音

- グリッサンドラインの端は音符に張り付き、音高の変更に伴って移動
- グリッサンドラインは音符右の付点や音符左の臨時記号との衝突を自動的に回避<sup>†</sup>
- 譜表の同じ線上や余白上にあり臨時記号の異なる音符間や、隣り合う位置の音符間にあるグリッサンドラインは角度をつけて表示され、音高の違いを明示<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- グリッサンドラインはリズム間隔を反映し、短くなりすぎないように表示<sup>†</sup>
- 和音をつなぐグリッサンドラインでは最上部に gliss. テキストのみを表示<sup>†</sup>
- 浄書オプションでグリッサンドラインの外観や位置を包括的に設定
- ターン / モルデント / トリルは音符や和音に応じて自動配置され、必要に応じて上下や右に臨時記号を表示可能<sup>†</sup>
- トリルはリズム間隔を反映し、トリル線が短くなりすぎないように表示<sup>†</sup>
- トリル線のスピード表示を変更可能(例: 遅く~速く / 速く~遅く)<sup>†</sup>
- トリル終了の位置を示す縦線を表示<sup>††</sup>
- 装飾をスラーの内側 / 外側に配置選択<sup>†</sup>
- アルペジオ記号を和音の最高音と最低音に付加: 音高の変更や和音の追加 / 削除に応じて表示位置を自動変更
- アルペジオ波線に上下方向を表示: 矢印やクープラン式のはねを付加
- アルペジオ無しの括弧を表示
- アルペジオ記号およびアルペジオ無し括弧を譜表をまたいだ声部に付加可能: 譜表の間隔や音符の変更に応じて位置や長さを自動変更
- アルペジオ記号が前の音符や和音に衝突しないようリズム位置を調整

## 打楽器<sup>†</sup>

- 無類の柔軟性を備えた無音程打楽器の記譜機能
- 任意の数の打楽器を組み合わせキットを作成
- 打楽器キットを3タイプの譜面に表示: 五線譜 / グリッド / 個別の打楽器<sup>†</sup>
- 同じ楽譜内容をレイアウト毎に異なる譜面表示可能(例: フルスコアでは五線譜表示で縦幅を節約しつつパート譜ではグリッド表示)<sup>†</sup>
- グラフィカルな打楽器キットエディター: ドラッグ & ドロップでの五線譜配置可能<sup>†</sup>
- 任意の数の打楽器をグリッド表示: 間隔調整可能<sup>†</sup>
- グラフィカルな打楽器の演奏技法エディター: 符頭の種類、グリッドに対する位置(グリッド線の中央 / 上 / 下)、アーティキュレーション、トレモロなどに対応<sup>†</sup>
- 包括的なドラムセット記譜: キットパーツによる符尾の上下方向の自動振り分け

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

(キットエディターで変更可能)<sup>†</sup>

- 打楽器のレジェンド: すべての楽器や現在五線譜上のキットに含まれる楽器を表示可能<sup>†</sup>
- 最適化された無音程打楽器の入力方法: どの楽器や奏法が入力されるか、選択されているかをガイド表示
- 任意の1オクターブを奏法選択に割り当てて様々な奏法をカバーできる独自の MIDI 入力方法<sup>†</sup>
- サードパーティ製 VST インストゥルメントやサウンドライブラリーのためのマッピングエディター<sup>†</sup>
- 打楽器キットに含まれるそれぞれのパートを VSTi 上の別のパッチ、また必要であれば別の MIDI チャンネルにも割り当て可能<sup>†</sup>
- 再生モードでの打楽器専用ドラムディスプレイ: スティックツールにより再生モードで直接入力が可能<sup>†</sup>
- Keda Music Ltd. が開発したインド打楽器の共通記譜法に対応<sup>†</sup>

## ピアノペダル記号

- サスティン / ソステヌート / ウナコルダなど包括的なピアノペダル記号対応
- ペダル線開始位置に表示する記号やテキストの外観、組段区切り後の延長線の表示方法などを選択可能
- ペダル線のスタイル: 直線 / 破線 / 線なし / 段階的な破線
- ハーフペダルへの対応: ペダルの強さやリテイクでのレベル変更などを含む<sup>†</sup>
- 浄書モードでのグラフィカルなペダルリテイクおよびレベル変更の調整
- ソステヌート、ウナコルダペダルを再生に反映(要対応 VST インストゥルメント)<sup>†</sup>

## 演奏技法

- 200以上の演奏技法を楽器の系統別に搭載、記譜モードの右パネルまたはポップオーバーから入力可能
- 種類に応じて演奏技法記号を自動配置
- 演奏技法の対象を明示するために線または矢印と共に表示可能<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- テキスト指示または図形記号の選択が可能
- 楽器の種類に応じて最も適切な外観を自動選択(例: ミュートはトランペットでは“+”、バイオリンではテキスト “*con sord.*”)<sup>†</sup>

## リハーサルマーク

- 曲の進行に応じて自動的にリハーサルマークの順番が増加し、途中の挿入や削除にも反応
- シーケンスの種類を文字 / 数字 / 小節番号から選択可能
- 任意のリハーサルマークに対して接頭辞 / 接尾辞をカスタマイズ可能<sup>‡</sup>
- リハーサルマークの囲みを四角と円から選択、サイズの詳細指定可能<sup>†</sup>
- リハーサルマークと小節番号が重なる場合は小節番号を非表示
- 組段の最初のリハーサルマークは組段の左端または音部記号と調号の右に配置選択可能
- リハーサルマークとテンポ変更が同時に起こる場合は縦位置を自動揃え<sup>†</sup>
- 異なるシーケンスの種類を併用することで、同じフローに独立進行する2つのリハーサルマークを使用可能<sup>†</sup>
- リハーサルマークを組段や譜表の下に表示することも可能

## リピート括弧

- 任意の回数のリピート括弧に対応
- リピート括弧を小節線に自動揃え
- それぞれの括弧にテキストを表示可能
- 包括的な衝突回避定
- レイアウトオプションにてどの譜表の上にリピート括弧を表示するか指定可能

## 休符

- 1/1,024休符から最長休符(4分休符32個分)まで対応
- 各声部に適切な休符を自動配置: 対位法規則含む
- 複数声部の休符を自動配置: 拍のグループと休符の関係を維持し、同じ声部のメ

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能



ロディの形に対応

- 複数声部の同じ長さの休符を自動統合
- 休符のデザインを選択可: 旧式(8分休符の反転)やZ式の4分休符を含む<sup>†</sup>
- 浄書モードにて休符の縦位置を編集可能
- 拍子に応じて休符を自動分割: 拍の断片に対しても設定可能<sup>†</sup>

## スラー

- 包括的なスラーの位置設定: 曲線の下にある要素や終点でのアーティキュレーションとの衝突回避含む
- スラーのセグメント数を自由に設定可能
- 実線 / 破線 / 点線 / 半分破線 / 編者注のスタイルを選択可能<sup>†</sup>
- 長いフレーズの場合、曲線のスラーと平坦なスラーを選択可能<sup>†</sup>
- 声部や譜表をまたぐスラーを作成可能(例: ピアノやハープの記譜)
- 浄書モードで複数のスラーの形や位置を同時編集: 各ハンドルの独立編集も可能
- 複数の楽器に対するグループスラーの作成および同時編集が可能<sup>†</sup>
- タイで結ばれた音符のスラーの場合、どちらの音符からスラーを結ぶかを一括または個別に設定可能

## 譜表

- 譜表と譜表の上下にある要素の衝突を自動回避<sup>†</sup>
- 譜表の線の太さを浄書オプションで制御可能
- 譜表全体のサイズ設定とは異なるサイズをそれぞれの譜表に設定可能、すべての譜表のサイズを変えることも可
- 譜表またはフレームの改行時に譜表全体のサイズを変更可能

## テキスト

- どのリズム位置にでもテキストを作成可能
- 階層的な段落と文字スタイル設定によりプロジェクト全体のフォントやフォントサイズを一貫制御

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 左 / 中央 / 右 揃え
- 複数の太さを持つフォントファミリーに対応
- タイポグラフィの制御: スペーシング / フォント幅 / 上付き / 下付き / ベースラインの移動など
- ページのテキストフレームではプロジェクトのメタ情報を代用表示可能(例: 欄外見出しなど)
- テキストフレームに 両端 / 左 / 中央 / 右 揃えテキスト配置可能
- SIL オープンフォントライセンスによる3種類の高品位テキストフォントファミリーが  
付属: Academico (Century Schoolbook に類似); Libre Bodoni; Crimson Text  
(Garamond に類似)

## 拍子記号

- 1~1,024 までの分母設定: 2の累乗数以外での分母も含む(例: 3/6)<sup>†</sup>
- 交互に繰り返す拍子記号の設定(例: 2/4 - 6/8 の繰り返し)<sup>†</sup>
- 集合拍子<sup>‡</sup>の設定(例: 12/8 + 5/8 で1小節を構成し、破線の小節線で分割)<sup>†</sup>
- 入れ替え可能な拍子の拍子記号の設定(例: 各小節に 3/4, 2/4, 4/4 のどれかを用いるが、特にどれを使うかは各小節には明示されていない)<sup>†</sup>
- アウフタクト(弱起、ピックアップ)小節: 正確な拍数を指定可能
- 自由拍子(オープン): 小節を持たないフレーズの自動割り当て含む<sup>†</sup>
- ポリメーターに一部対応(拍の長さは一致するが小節の長さは必ずしも一致しない)
- 拍子記号に伴って拍 / 音符 / 休符を自動的にグループ化: シンコペーションにも対応し、フロー毎に異なる設定が可能

## トレモロ

- 単音および重音のトレモロ: 1~4ストロークまで対応
- トレモロが符頭、連桁と衝突しないように符尾の長さを自動調整: 譜表の線に適切にスナップし視認性を維持<sup>†</sup>
- 重音のトレモロでの外観選択: すべての線で符尾を結合 / 最も外側にある線

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

で符尾を結合 / 符尾を結合しない

- 和音同士の重音のトレモロの場合、一組のトレモロ記号で表示<sup>†</sup>
- 1オクターブ以上離れた音符間のトレモロを自動記載: 音符の間 / 上下配置を選択可能<sup>†</sup>
- 符尾のない音符(全音符以上)のトレモロの外観を自動調整: 音符や符頭、概念上の符尾間の中央または上下配置を選択可能<sup>†</sup>
- 符尾に対するトレモロの位置や重音トレモロの間隔を包括的に設定<sup>†</sup>
- 重音トレモロに対してフェルマータを中央に自動配置<sup>†</sup>

## テンポ

- Larghissimo から Prestissimo に至る、豊富なテンポのプリセットライブラリー
- 固定テンポ変更 / 段階的なテンポ変更(例: rit., accel.) / 相対テンポ変更(例: più mosso) / テンポをリセット(例: A tempo, Tempo I)
- プリセットのテンポテキストに自動的にメトロノームマークを追加<sup>†</sup>
- メトロノームマークまたはテキストを非表示可能: 各箇所独立設定可能<sup>†</sup>
- メトロノームマークの括弧つき表示可能<sup>†</sup>
- テンポの近似表示(例: circa, c., ca.): テンポ範囲の表示可能<sup>†</sup>
- テンポを整数表示しつつ内部で小数点含むテンポ管理: メディア音楽制作に最適<sup>†</sup>
- 段階的なテンポ変更の際は説明テキスト表示可能: 線やハイフネーションで該当範囲を表示(例: rall.....en.....tan.....do)<sup>†</sup>
- 同じテンポ表記をレイアウト毎に異なる外観で表示可能(例: フルスコアとパートで異なる表記にする)<sup>†</sup>
- テンポマークと他の要素との水平位置を自動揃え: 拍子記号がある場合は拍子記号に揃え、無い場合は音符または休符に揃える

## タイ

- タイの包括的な自動配置: 付点 / 臨時記号 / グリッサンドライン / 符鉤などとの衝突回避を含む
- タイの終端および曲線の中央部と譜表の線との衝突を自動回避: 曲率を調整

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- ・ / タイの高さを変更
- ・ タイの方向(上下の向き)を自動判断しつつ、個別の上書き設定も可能
- ・ 音部記号や譜表をまたいだ音符や和音の間のタイを作成<sup>†</sup>
- ・ 異なる声部の音符、異なる装飾音符と主音符の間、またはリズム的に隣接しない音符の間(例: 鍵盤楽器での伸ばされたアルペジオコードなど)でタイを作成
- ・ 実線 / 破線 / 点線 / 半分破線 / 編者注のスタイルを選択可能<sup>†</sup>
- ・ Laissez vibrer (l.v., “let ring”, 鳴らしたままに) タイを付加可能<sup>‡</sup>
- ・ 50以上の配置やデザインの設定オプション
- ・ 浄書モードにて形状、配置を個別調整可能

## 連符

- ・ 与えられた(付点なしの)音価に対して任意の連符を作成
- ・ 入れ子状の連符を作成: 任意の段階が可能
- ・ 連符の比率表示を 数字A / A:B 比率 / A:B 比率とユニットの音価 / 表示なしで選択可能
- ・ 連符全体を対象とする場合に連符の括弧を自動的に非表示可能
- ・ 連符の比率表示をリズム上の中央位置 / 視覚的な中央位置に配置選択可能<sup>†</sup>
- ・ 連符比率を表す数字の太さ選択
- ・ 連符の比率を表す数字と音符の倍率調整<sup>†</sup>
- ・ 譜表の間にある連符なしの音符に対し、適切な上下方向で括弧を自動付加
- ・ 連符の括弧を常に水平表示、または音符グループの形状に応じて括弧の傾斜を許可
- ・ 声楽譜表において連符を常に譜表の上部に配置可能
- ・ 連符モードにて同じ連符の連続入力が可能
- ・ 同種の連符が連続した場合は自動的に省略可能<sup>†</sup>
- ・ 連符が小節線をまたいだ場合は適切な短い連符に自動分割し、(編集の後に)それらが同じ小節に収まった後は再び一つの連符に自動結合<sup>†</sup>
- ・ 連符が小節をまたいだ場合にも一つの連符として表示可能<sup>†</sup>
- ・ 連符の括弧/比率を削除すると、残った音符を合理的な音価に自動調整

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

## レイアウトとフォーマット

### テンプレート

- ソロ楽器から大編成のバンドやオーケストラまで30以上の楽譜テンプレート

### レイアウトの種類

- 同じプロジェクト上で、フルスコア / パート / カスタムスコアのレイアウトを無制限に作成可能: それぞれ個別にカスタマイズ可能<sup>†</sup>
- フルスコアレイアウトはデフォルトですべてのプレイヤー、すべてのフローの楽譜を含む
- パートレイアウトはプレイヤー追加時に自動的に作成され、デフォルトでは一人のプレイヤーのすべてのフローの楽譜を含む
- カスタムスコアレイアウトは任意のプレイヤー、フローの組み合わせを含むことが可能: 声楽リハーサルのスコアなどに便利
- レイアウトオプションにて、レイアウトごとに独立してページサイズ / 余白 / 譜表の線間の高さ / マスターページなどを設定可能<sup>†</sup>
- 記譜した個別の要素の外観をレイアウトごとに独立設定可能<sup>†</sup>

### ページ設定

- 19のプリセットページサイズから選択、またはカスタムページサイズを指定可能
- 縦 / 横 向き対応
- ページ余白指定: 同一 / 見開きで個別指定 / 見開きで上下、内側、外側指定
- プロジェクト上のページ設定はそれぞれのレイアウトで完全独立
- ISO216 または US ページサイズの選択に対応<sup>‡</sup>

### 組段のレイアウト

- フローの最初の組段をインデント可能
- 組段区切りをリズム上のどの位置でも作成可能: 小節中や連符の中でも区切り可<sup>†</sup>
- 組段区切りでのオープンな小節の自動分割が可能<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 組段区切りで譜表サイズの変更可能
- 任意のプレーヤーの譜表を他に対して拡大縮小可能
- 音符のスペーシングの値と比率を設定可能: すべてのリズム上の位置に対して<sup>†</sup>
- 組段やフレームを区切り / 統合(変換) / ロック可能
- 組段区切りにおいて譜表ラベルの表示 / 非表示や長さを変更可能<sup>‡</sup>

## 垂直方向のスペーシング

- 譜表同士の衝突回避のために間隔を自動調整<sup>†</sup>
- 楽曲フレームの上下余白をレイアウトオプションで設定: さらにフレームごとに上書き設定可能<sup>†</sup>
- しきい値に基づく垂直方向の両端揃え: ページ使用率がほぼ一杯の場合、組段間隔のみを増やして両端を調整、ページに少し余裕がある場合、譜表間隔と組段間隔の両方を増やして両端を調整<sup>†</sup>
- 両端揃えの際、大譜表の楽器は一組として扱われる
- 譜表の間隔は強弱記号や連桁などを考慮に入れて自動調整(内容を伴う譜表 / 組段間の最小間隔)<sup>†</sup>
- 括弧の上下 / 括弧の中 / 連合譜表の中 / 括弧なしなど、さまざまな譜表の組み合わせで垂直方向の最適間隔を設定可能
- 浄書モードにて単一のフレームやページに縦の間隔を編集し、他のページにも一括適用可能
- 縦間隔の編集の際、数値をインタラクティブに表示

## 水平方向のスペーシング

- 美しく均整のとれた楽譜を実現する優れた横間隔指定アルゴリズム
- 浄書モードにてグラフィカルなオーバーレイ表示とともに横間隔を編集可能
- 組段の特定の場所に対する間隔の変更、または純粹にグラフィカルなオフセット指定が可能
- それぞれの組段が空か要素を含むかを一望でき、どの間隔を調整できるかを楽に判断可能

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 音符の間隔編集の際は組段のフォーマットをロックし、音符がこぼれることを回避
- 音楽フレームのマージンに対して組段の左右の端をインデント可能

## ページレイアウト

- DTP スタイル、フレーム機能搭載のページレイアウトシステム
- 楽曲 / テキスト / グラフィック 用の独立したフレームを作成
- マスターページレイアウトにより左右ページのデフォルトの外観を設定<sup>†</sup>
- フローの最初のページには専用のマスターページを自動適用<sup>†</sup>
- 同一ページ上の複数の楽曲フレームは内容独立、またはリンク可能
- 楽曲フレームはフィルタリングにより特定のフローやプレーヤーを含むことが可能<sup>†</sup>
- 楽曲フレーム内の楽譜はサイズやレイアウトを独立指定可能
- テキストフレームはタイトル / レイアウト名 / 著作権情報などのプロジェクトのメタ情報を代用表示可能
- レイアウトのどこからでも空白ページの挿入が可能
- ページ番号の変更: 数字(アラビア数字) / ローマ数字の切り替え可
- 異なるページサイズにフレームレイアウトを適応可能
- 独立したマスターページセットを作成しそれぞれのレイアウトに個別指定可能<sup>†</sup>
- ページ間でのフレームの複製

## グラフィック

- グラフィックフレームにビットマップ(PNG / JPG / BMP)およびベクター(SVG)画像を読み込み
- 画像をフレームサイズに合わせる際、適合モードを選択可能: アスペクト比調整(元の縦横比率を維持) / フィル(フレームを埋める) / アンスケール(任意)
- マスターページへのグラフィックフレーム配置により、そのマスターページを使用するすべてのページに画像を自動表示<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能



## 再生とオーディオ

### オーディオエンジン

- 32ビット浮動小数点オーディオエンジン<sup>†</sup>
- VST 3 互換バーチャルインストゥルメント / エフェクトプラグイン対応<sup>†</sup>
- 一部 VST 2 互換バーチャルインストゥルメント / エフェクトプラグイン対応  
(NI Kontakt など)
- 専用 ASIO ドライバーを持たないオーディオデバイスに対応した汎用ローレイテンシー ASIO Driver<sup>†</sup>

### 同梱プラグイン

- HALion Sonic SE 2 サンプルプレイバックマルチ音源<sup>†</sup>
- 1500以上の音色を搭載した HALion Sonic SE 2 ファクトリーパッチ
- 100以上の高品位オーケストラパッチを搭載した HALion Symphonic Orchestra ライブラリー<sup>†</sup>
- REVerence コンボリレーションリバーブエフェクト
- 30以上のエフェクト搭載 (例: コンプレッサー / ブリックウォールリミッター / デイレイ / 一般的なリバーブ / ギターアンプシミュレーター)<sup>†</sup>

### ミキサー

- ミキサー: 各チャンネルにインサート / センド / 4バンドパラメトリック EQ を含むチャンネルストリップ搭載、インストゥルメント / FX / 出力のルーティング
- 使用 VST インストゥルメントの各出力からチャンネル独立出力
- マスター FX チャンネル: デフォルトで REVerence リバーブを設定
- インサート / EQ / センド / ルーティングの表示 / 非表示
- トラックのミュート / ソロ
- チャンネルの幅を可変可能

### 楽譜の解釈

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>†</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- プロジェクト内のテンポ記号からテンポマップを自動生成
- プロジェクト内の局部的 / 段階的強弱記号から強弱の全体情報を自動生成
- スタッカート / アクセント / テヌート / マルカートを再生に反映
- スラーやレガート奏法を再生に反映
- 装飾音を再生に反映(スラッシュなしの装飾音は長前打音、スラッシュありは短前打音として解釈)
- 単音 / 複数音のトレモロを再生に反映
- 楽譜上の演奏技法を VST エクスプレッションマップにリンクし、インストゥルメントの音色(アーティキュレーション)に反映<sup>†</sup>
- VST エクスプレッションマップエディター搭載、既存の Cubase エクスプレッションマップを読み込み可能
- タイミング / ダイナミクスのヒューマナイズオプションにより人間的で自然な再生を実現

## 再生コントロール

- 再生開始場所を選択可能: ワイパー(再生ヘッド)位置、選択位置(選択範囲)、フローの冒頭、前回の再生開始場所
- 早送り / 巻き戻し

## 再生モード

- 専用の再生モードインターフェース: ピアノロールイベントディスプレイ
- 各インストゥルメント(楽器)の各声部を個別のトラックに表示
- 各トラックを開閉し、再生するリージョンまたはイベントを表示
- VST インストゥルメントパネル: 各 VSTi の割り当てや編集画面表示可
- ペンシル / スティックツールにより、ピアノロールやドラムトラックに音符を入力<sup>‡</sup>
- 再生する音価または記譜上の音価を選んで編集し、印刷する楽譜に反映するかしないかを選択可能<sup>‡</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

## 読み込みと書き出し

### プロジェクト管理

- 他の Dorico プロジェクトや MusicXML、MIDI ファイルからフローを読み込み、さらに楽章を追加することが可能
- 単一または複数のフローを、一つまたは独立した Dorico プロジェクトへ書き出し、または独立した MusicXML や MIDI、オーディオファイルへ書き出し可能

### MusicXML

- Cubase、Sibelius、Finale など他の音楽ソフトウェアで作成した圧縮 / 非圧縮 MusicXML ファイルの読み込み
- MusicXML 上で指定されたフォーマット情報を維持(例: 符幹の方向、連桁、臨時記号、スラーの配置など)、または Dorico によるこれらの自動解釈を選択可能
- 圧縮 / 非圧縮 MusicXML ファイルの書き出し(一部の音符は現在未対応)

### オーディオ書き出し

- プロジェクトをオーディオファイルに書き出し可能(WAV / MP3)

### MIDI

- 他の音楽ソフトウェアからの MIDI ファイル読み込み
- 読み込みの際のクオンタイズや楽器の割り当て設定は限定的(現時点)
- 各声部 / 楽器をトラック分けしてMIDI ファイル書き出し

### 印刷

- プロジェクト上のすべてのレイアウトを一括印刷
- 印刷ジョブタイプ: 標準 / 見開き / 2ページを1ページに集約 / 冊子印刷
- プリンターの自動両面印刷機能に対応
- 2ページを1ページに集約、または大きな用紙に横向き印刷する際、最終ページが奇数の場合は自動的に小さな用紙に縦向き印刷<sup>†</sup>

<sup>†</sup>他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

<sup>‡</sup>Dorico 1.2 で追加された機能

- 拡大 / 縮小印刷: 用紙の大きさに合わせて楽譜の大きさを自動調整
- 標準的な注釈(日時 / トンボ / 境界線 / 透かし)を含むページの印刷

## 画像書き出し

- プロジェクト上のすべてのレイアウトを一括書き出し
- 各レイアウトからページ範囲を書き出し
- オフセット印刷対応モノクロ PDF 書き出し
- ビットマップ画像書き出し(PNG / TIFF): 解像度選択
- ベクター画像書き出し(PDF / SVG)
- 日付を含むファイル名のファイルを作成可能
- 標準的な注釈(日時 / トンボ / 境界線 / 透かし)を含む画像の書き出し

## ワークフローとユーティリティ

### ウィンドウ

- 四隅に折り畳み可能なパネルを備えたシングルウィンドウインターフェース
- 同一ウィンドウに複数のタブを表示し、複数のレイアウトを切り替えて作業可能
- 編集範囲を垂直 / 水平に分割し、独立したタブグループを設定して作業可能:  
ワイドスクリーンディスプレイに最適
- プロジェクト上で複数のウィンドウを開き、各ウィンドウに別々のモードを指定可能
- ウィンドウサイズ、位置、モードをプロジェクトと共に保存
- ミキサーとトランスポートウィンドウをポップアップ表示可能
- オプションウィンドウは開いたままの作業が可能(ノンモーダルウィンドウ)

### ビュータイプ

- ページビュー: 用紙への印刷、または画像への書き出しと同様に楽譜表示
- ギャラリービュー: 現在演奏していないパートに属する空の譜表も含め、無限の幅を持つ一行の楽譜として表示

\*他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

\*Dorico 1.2 で追加された機能

## 言語対応

- 日本語、中国語(簡体)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語に対応したユーザーインターフェース
- 上記言語のキーボードに対応したキーボードショートカット

## キーボードショートカット

- 効率的な記譜、編集を可能にする豊富な初期ショートカット
- ショートカットのカスタマイズ可能なコマンドエディター
- 割り当てられたショートカットをキーボード画像と共に表示 / 印刷可能

## スクリプト言語

- basic API でのスクリプトプラグイン開発が可能な Lua インタプリタを統合

## 自動保存

- それぞれのプロジェクトを定期的に自動保存し、最新のバージョンを確保

\*他の主要なデスクトップ楽譜作成ソフトウェアに搭載されていない Dorico 独自の機能

\*Dorico 1.2 で追加された機能